

## 令和6年度 第1回 人権教育研究部研修会

令和6年5月29日(水) みをつくし文化センター

### 1 研究部長挨拶 浜松市立中ノ町小学校 長尾真一郎先生

人権教育の必要性に直面している毎日である。人権教育とは何かを再確認の上、ぜひ児童生徒の人権意識を高めてほしいと願う。

### 2 顧問校長挨拶 浜松市立新津小学校 松山 徹校長先生

新学期がスタートして2か月、新たな組織で人間関係づくりのピークをこれから迎えていく。子供の権利を守る「こども基本法」の施行から1年、環境を整えることが大人としての取り組みとなる。いじめに敏感に、有意義な研修にしたい。

### 3 役員組織

### 4 令和6年度 研究テーマ「人権意識の広がり」と参加体験型人権学習の推進」

### 5 講話1 「本年度の人権教育」 中ノ町小学校 長尾真一郎先生

「人権意識を持ち続けること」が何より大切ではないか。人権とは「生きていく上で、絶対に必要なもの」。衣食住のほか、思想信仰や移動の自由、教育を受ける権利など、生きていく上で一つでも欠けると苦痛を感じるものと同じである。互いを大切にできるように、活動し体験しながら人権感覚を高め、学んでほしい。

手引きに掲載されているワークは、短時間でも可能なものが掲載されている。朝活動の時間、授業の始めなどに取り組むのはどうか。他者の考えを善悪で評価するのではなく、聴く姿勢をもつ、相手を理解しようとして聴く活動等、実際に行ってみてほしい。

### 講話2 「学校で取り組む人権教育」 浜松市教育センター 指導主事 中村啓太郎 様

人権に関する話題は、絶えない。いじめやヤングケアラーなど、暗い話題になりがちである。日頃から、人権に関する話題を取り上げ、子供たちにどう考えるか、問いかけることが大事である。目標は、「自分と他者の人権を守るため、具体的な言動として現れること」、即ち自他の大切さに気付いた一人一人の児童生徒が、「人権が尊重される社会づくりに向けた行動につながるようにすること」である。

学校では当たり前とされていることでも、画一的な指導で苦しんでいる子がいるかもしれない。すべての子を大切に作る目的なら、同じことをするのが公平ではないかもしれない。目的に対して公平であるように振り返ってほしい。



### 6 顧問校長 浜松市立清竜中学校 袴田 稔校長先生

人権教育と学校とのかかわりを振り返ると、かつて出席番号は男女別、整列する時も男女別で背の順であり、当時は自分たちでは当たり前の感覚であったが、年々配慮すべきことが増えている。私たちは常にアップデートして、子供たちの人権意識が広がる雰囲気をつくっていく必要がある。

先生が子供を大切にすることというのは、変わらない。差別しないで平等に対応するから、子供は楽しく学校生活を送ることができる。信頼される先生になってほしい。多様性を認めるリーダーとして、率先して実践してほしい。

以上